

## 背景と課題

新型コロナウイルス感染症の流行が世界各地で発生し、大きな問題となっているが、現時点においては、ワクチンや特効薬は普及しておらず、これまでとは異なる“新しい生活様式”の導入を余儀なくされている。一方、この“新しい生活様式”においては、ソーシャルディスタンスや3密回避等、これまでの資源の集中配置による効率性の追求とは相反するため、様々な社会的、経済的課題が表面化している。さらに、将来、別の病原体による同様の世界的な感染爆発、いわゆるパンデミックが発生する可能性は十分にあり、パンデミック対策へのICTの貢献は重要となる。

このような状況において、本委託研究では、

### A) ウイルス等感染症により発生するパンデミック対策に資するICT

(テーマ例：病院や介護施設内の感染の防止、遠隔医療へのICTによる貢献等)

### B) 新型コロナウイルス感染症対策“新しい生活様式”を実現するためのICT

(テーマ例：3密回避型産業構造への変革やテレワークの利用拡大のためのICT、新しい遠隔教育の実現や日常生活におけるICT等)

### C) アフターコロナ社会を形成するICT

(テーマ例：現在のDXを超えたCyber-Physical融合、空間的に分散した個人と他者（他の個人やロボット等）との協働への取組、空間・時間を超えて価値を創出するためのICT等)

の3課題について、課題提案型の研究開発を実施する。

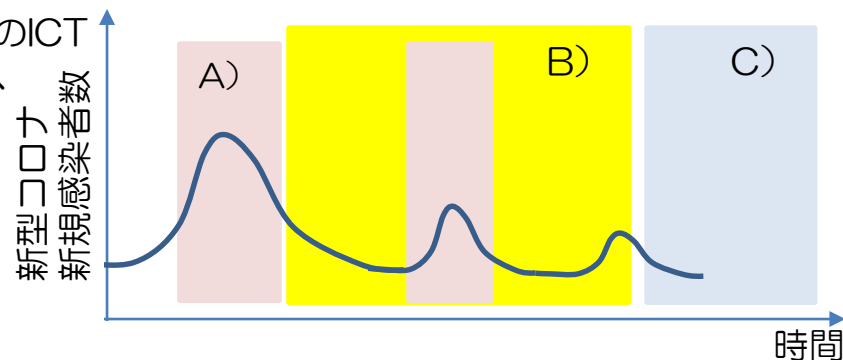


図1 ウイルス等感染症の状況における3課題の位置づけ

## 応募課題の要件

- 上記の3つのいずれかの課題に対して、応募者自らが課題を設定し、その課題を解決する情報通信技術を提案すること。
- 課題A及び課題Bの提案にあたっては、課題解決による直接的な受益者（例えば、遠隔医療がテーマであれば医療関係者等）をメンバーに入れたコンソーシアムを形成し、情報通信の視点と、それぞれの課題の視点で、研究開発成果を評価できること。
- 研究開発課題に対して、エコシステムの構築等を踏まえたサービス基盤の構築、実装に繋がるマイルストーンを設定するとともに、環境の変化に柔軟に対応できる研究開発体制を構築すること。
- 提案する研究開発課題では、社会実装を意識した実証実験を実施すること。

研究開発期間： 課題A、B：2021年度（委託研究開始日）～2022年度末、 課題C：2021年度（委託研究開始日）～2023年度末  
 予算： 課題A、課題C 1件当たり各年度20百万円（上限）、 課題B 1件当たり各年度10百万円（上限） 採択件数：最大10件